

2013年5月1日発行

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES 日本国際文化学会ニューズレター 24号

<http://www.jsics.org/>

日本国際文化学会事務局

753-8502
山口県山口市桜島3-2-1
山口県立大学
国際文化学部事務室内
Tel/Fax:083-928-3423
email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

会長就任の挨拶

白石です。この度、新会長を拝命いたしました。

新会長として、学会の主要な年間活動を概観したところ、全国大会の開催、学会誌の編集発行、その他の諸活動の遂行という三つがあげられることがわかりました。幸い、平成25年度の全国大会は、龍谷大学において、佐々木全国大会実行委員長の下ですでに肅々と準備が進んでいます。2002年の全国大会も同大学で開催されており、＜インターナショナル＞から＜インターカルチュラル＞へという本学会の基礎となる議題が討議されました。10年が経ち、この7月には新たな重要議題（「文化創成コーディネーター資格」に関して）を提案する運びとなりました。皆様からもすでに興味深い数々の共通及び自由論題の提出をいただいております。常任理事会一同、龍谷大学大宮キャンパスの風格のある見事な建物において、皆様とお会いすることを心から楽しみにしております。

学会誌『インターカルチュラル』に関しては、昨年途中から編集委員長を引き受けてご苦勞をいただいた法政大学の川村湊氏が、今年度も引き続き委員長をお引き受けいただくことになりました。しかし数年来の編集作業の経験から、委員長おひとりに編集作業推進の仕事が集中することを防ぐために、副編集長としてプール学院大学の植野氏に「投稿原稿の受け取りと審査進行スケジュール」とを担当いただくことになりました。それ以外のすべてを従来通りに編集長が全体の編集作業の流れを見ながら統括いただくこととなります。すなわち特集原稿の取りまとめ、「私の3冊」や「書評」および出版社とのやり取り等々です。この機会に歴代の編集長の多大なご苦勞に感謝申し上げたいと存じます。

「その他の諸活動」を扱う事務局は、山口県立大学において岩野氏とウィルソン氏のもとで運営されることになりました。そのことを学会員の皆様にご報告すると同時に、お二人を始めとする同大学の会員諸氏には厚く、厚く、御礼を申し上げます。すでに幾多のご迷惑をおかけしておりますが、今後はもうそういうことのないよう努力する覚悟です。

日本国際文化学会会長 岡崎女子大学 白石さや



新旧役員が交代しました

新役員については、学会ホームページをご覧ください。<http://www.jsics.org/>



訃報

本学会の発起人の一人であり、名誉顧問も務められた小林哲也先生（京都大学名誉教授・プール学院大学名誉教授）が2013年5月1日(水)にご逝去されました。

先生は、日本比較教育学会第5代会長（1987-1988）、1981年に設立された異文化間教育学会の初代会長、1996年に開学したプール学院大学の初代学長を務められ、2005年の秋の叙勲では瑞宝中綬章を受けられています。

また、教育学分野におけるご著書のほか、『国際文化学』（共編著書、アカデミア出版会、2002）『異文化間協働—国際文化学の展開』（共編著書、アカデミア出版会、2011）を上梓し、国際文化学の発展にも寄与されました。

本学会の設立と発展に尽力された先生のご功績の一端を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

常任理事 植野雄司（プール学院大学国際文化学部）

第12回全国大会のプログラムを發表します

2013年7月6日(土)、7日(日)の両日、日本国際文化学会2013年度第12回全国大会が、京都、西本願寺脇の龍谷大学大宮学舎において開催されます。龍谷大学での全国大会開催は、2002年の創立大会以来、11年ぶりのこととなりますが、今回は、2002年大会を開催した瀬田学舎ではなく、龍谷大学発祥（1639年、本願寺学寮の創設を起源とします）の地であり、その建物のほとんどが初期西洋建築として国の重要文化財に指定されている、風情豊かな大宮学舎に皆様をお迎えします。

学術的な内実においても、龍谷大学アフラシアセンターとの共催にかかるシンポジウム「非西洋型国際関係理論の可能性：京都学派との関係において」、フォーラム「『国際文化学』をどのように教えるか」を研究・教育の両輪として、これらを囲むように多岐多様な6点の共通論題、15点の自由論題が用意されており、きわめて充実した大会となることが予想されます。これらに加えて、龍谷大学国際文化学会との共催にかかる2つのワークショップ——祇園の女将をお呼びしての「祇園の所作」の実演講義と「二カ国語狂言」の上演——や、龍谷ミュージアム・西本願寺などへの見学ツアー、また龍谷大学茶道部学生によるお茶の点て出しサービスなどで、遠来のお客様を国際文化的におもてなしする予定です。

会員の皆様方の多数の参加をお待ちしております。

第12回全国大会実行委員長 龍谷大学国際文化学部 佐々木英昭

日本国際文化学会第12回全国大会プログラム (2013年5月1日現在)

- ・大会テーマ：「京都で国際文化学を考える」
- ・大会日程：2013年7月6日（土）～7日（日）
- ・大会会場：龍谷大学大宮キャンパス

(京都市 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1)

アクセス：http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_omiya.html

・大会日程概要

7月6日(土) (1日目)

10：30－11：30 自由論題
[セッションA・B・C]
12：00－13：00 ワークショップ1
13：00－15：00 共通論題〔1・2・3〕
15：00－17：00 シンポジウム
17：15－18：00 ワークショップ2
18：00－20：00 情報交換会

7月7日(日) (2日目)

09：00－10：30 自由論題
[セッションD・E・F]
10：30－12：00 フォーラム
12：30－13：30 総会
13：30－15：30 共通論題〔4・5・6〕
15：30－17：30 龍谷大学大宮学舎・
ミュージアム見学ツアー

・大会日程詳細

<7月6日(土)：1日目>

10：30－11：30 自由論題 [セッションA・B・C]

●セッションA

司会：白石 さや（岡崎女子大学教授）

- 1) 井上 浩子（学術振興会特別研究員）「平和構築論における文化—その重要性と問題点」
- 2) 櫻井 想（龍谷大学大学院国際文化学研究科博士後期課程）「国際文化学とオーラル・ヒストリーの接続—歴史叙述の試みとして」

●セッションB

司会：松居 竜五（龍谷大学国際文化学部教授）

- 1) 山田 朋美（津田塾大学国際関係研究所研究員）「アイルランド人宣教師の中国認識の変遷」
- 2) シュミット・クラウディア（桃山学院大学文学研究科博士後期課程）「漫画における剣豪のジェンダー的表現—『バガボンド』と『風光る』の比較に基づいて」

●セッションC

司会：川村 湊（法政大学国際文化学部教授）

- 1) 佐野 東生（龍谷大学国際文化学部教授）「シーア派イスラームにおけるアリー信仰」
- 2) 阪口 有美子（龍谷大学大学院国際文化学研究科修士課程）「日本古代の信仰にかかわる一考察」

12：00－13：00 ワークショップ1「祇園の所作」

講演・演舞者：田中 ^{ひろこ}泰子氏（祇園甲部「つる居」女将）

京都の五花街のうち最高の格式と伝統を誇る「祇園甲部」の女将をお迎えし、演舞を実演していただきながら、祇園花街の起源や成り立ちから、芸妓さん・舞妓さんまいこの所作・振付・着物・髪型やその日常、舞妓さんへの教育方法まで、「祇園」という伝統文化の実情をお話いただきます。昼食をとりながらご鑑賞ください。

13：00－15：00 共通論題 [1・2・3]

●共通論題1「北方先住民族の過去・現在、そして未来」

司 会：井出 晃憲（文教大学国際学部非常勤講師）

報告者：藤原 潤子（総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員）

斎藤 君子（口承文芸研究者）

佐々木 史郎（国立民族学博物館教授）

●共通論題2「日本の文化における超自然的な事物の表象——物の怪、幽霊、怪異を中心に」

司 会：鈴木 裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）

報告者：ティタニラ・マートライ（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館研究員）
マガリ・ビューニュ（ストラスブール大学博士候補生）
ヘレナ・ガウデコヴァ（ナールステック・アジア、アフリカ、アメリカ民族文化博物館学芸員）

●共通論題3「俳句の国際化と『非西洋』の拠点としての俳句」

司会：佐々木 英昭（龍谷大学国際文化学部教授）

報告者：コリーヌ・アトラン（作家、翻訳家）

スティーヴン・ウルフ（龍谷大学国際文化学部教授）

バー・ボルドー（富川力道）（日本ウェルネススポーツ大学スポーツプロモーション学部准教授）

15：00－17：00 シンポジウム「非西洋型国際関係理論の可能性—京都学派との関係において—」

モデレーター：瀧口 順也（龍谷大学国際文化学部講師）

パネリスト：クリスチアン・ウル（ゲント大学東南アジア言語文化学部教授）

石 之瑜（台湾国立大学政治学部教授）

川村 覚文（東京大学 共生のための国際哲学研究センター特任研究員）

清水 耕介（龍谷大学国際文化学部教授、アフラシア多文化社会研究センター長）

討論者：ジョルジオ・シャーニー（国際基督教大学政治学部教授）

陳 慶昌（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

17：15－18：00 ワークショップ2「ニカ国語狂言」

大蔵流狂言師の茂山 あきら氏と米国出身の演出家・俳優にして龍谷大学国際文化学部教授でもあるジョナ・サルズ氏が1981年に結成し、爾来30年にわたって国際文化的な活動を続けてきた「能法劇団」がニカ国語狂言を本館前（野外）にて上演します。

演目：「濯^{すす}ぎ川」（フランスのファルス、“Le Cuvier”の茂山氏による狂言化）

18：00－20：00 情報交換会

<7月7日(日) (2日目) >

9：00－10：30 自由論題 [セッションD・E・F]

●セッションD

司会：若林 一平（文教大学国際学部名誉教授）

1) 鴻 鵬（名城大学法学研究科博士後期課程）「元関東軍作戦主任参謀遠藤三郎と熱河作戦—「遠藤日誌」を中心に—」

- 2) 小野 百合子 (一橋大学社会学研究科特任講師) 「奄美における『日本復帰運動』と『沖縄返還運動』—奄美／沖縄／日本」
- 3) 奥田 孝晴 (文教大学国際学部教授) 「『東アジア共同体への道』研究—戦争責任・戦後処理責任問題における日独比較からの再構成」

●セッションE

司会：岡 眞理子 (青山学院大学総合文化政策学部教授)

- 1) 越智 淳子 (早稲田大学アジア・北米研究所、日韓グローバル研究所招聘研究員) 「日本人論の盛衰と近代化論との関係、その行方」
- 2) 芝崎 厚士 (駒沢大学グローバル・メディア・スタディーズ学部准教授) 「近現代日本における対外文化政策思想の形成と展開—戦前・戦後・冷戦後」
- 3) 山田 直子 (成蹊大学卒業生) 「1978年の日中文化交流—小澤の中国公演を事例に」

●セッションF

司会：斉藤 文彦 (龍谷大学国際文化学部教授)

- 1) 大形 利之 (東海大学国際文化学部教授) 「インドネシアのテロリズム—イスラーム過激派からテロリストへの変節に関する考察」
- 2) 鍋島 孝子 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授) 「JST-JICAプロジェクト：アフリカ農民がコンポスト・トイレを受け入れるまで」
- 3) 山本 菜衣子 (名桜大学大学院国際文化研究科修士課程) 「ジェイチーニョ・ブラジレイロ ブラジル人の問題解決法—パラナ州ロンドリーナ市を事例として」

10：30—12：00 フォーラム「『国際文化学』をどのように教えるか」

コーディネーター：松居 竜五 (龍谷大学国際文化学部教授)

発話者：権 五定 (龍谷大学国際文化学部特任教授)

浅羽 祐樹 (山口県立大学准教授)

鈴木 靖 (法政大学教授)

12：30—13：30 総会

13：30—15：30 共通論題〔4・5・6〕

●共通論題4「岐路に立つ多文化主義—理論的・実証的再検討」

司会：川村 陶子 (成蹊大学准教授)

報告者：白川 俊介 (日本学術振興会特別研究員)

加藤 恵美 (早稲田大学日欧研究機構研究助手)

森 敦嗣 (九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程)

●共通論題5 「グローバル社会における異文化調整と通訳翻訳」

司 会：鳥飼 玖美子（立教大学異文化コミュニケーション研究科特任教授）

報告者：水野 真木子（金城学院大学教授）

内藤 稔（東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター特任講師）

山本 一晴（大阪YMCA学院日本語学科非常勤講師）

坪井 睦子（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科特任准教授）

中村 幸子（愛知学院大学准教授）

●共通論題6 「東アジアの教育における文化と政治」

司 会：堤 ひろゆき（東京大学大学院教育学研究科博士課程）

報告者：李 スルビ（東京大学大学院教育学研究科博士課程）

井田 頼子（東京大学大学院教育学研究科博士課程）

高松 拓哉（東京大学大学院教育学研究科修士課程）

韓 炫精（東京大学大学院教育学研究科博士課程）

15：30－17：30 見学ツアー

龍谷大学大宮学舎本館（一階応接室、二階礼拝堂、貴賓室など）、西本願寺（勅使門、本堂など）、龍谷ミュージアムなどへご案内します。

案内役：嵩 満也（龍谷大学国際文化学部教授）、福山 泰子（龍谷大学国際文化学部准教授）

ほか

7月6日（土曜日）		（会場）	7月7日（日曜日）		（会場）
9:00-10:00	常任理事会・理事会		8:30-	受付	東餐、1Fホール
8:30-	受付	東餐、1Fホール	9:00-10:30	自由論題 D・E・F 【三会場】	
10:30-11:30	自由論題 A・B・C 【三会場】		セッションD 司会：若林一平 鴻鵬「元関東軍作戦主任参謀遠藤三郎と熱河作戦—「遠藤日誌」を中心に」 小野百合子「奄美における『日本復帰運動』と『沖縄返還運動』—奄美／沖縄／日本」 奥田孝晴「『東アジア共同体への道』研究—戦争責任・戦後処理責任問題における日独比較からの再構成」	東餐 203	
	セッションA 司会：白石さや 井上浩子「平和構築論における文化—その重要性と問題点」 櫻井 想「国際文化とオーラルヒストリーの接続—歴史叙述の試みとして」	東餐 203	セッションE 司会：岡真理子 越智淳子「日本人論の盛衰と近代化論との関係、その行方」 芝崎厚士「近現代日本における対外文化政策思想の形成と展開—戦前・戦後・冷戦後」 山田直子「1978年の日中文化交流—小澤の中国公演を事例に」	東餐 204	
	セッションB 司会：松居竜五 山田朋美「アイルランド人宣教師の中国認識の変遷」 シュミット・クラウディア「漫画における剣豪のジェンダー的表現—『バガボンド』と『風光る』の比較に基づいて」	東餐 204	セッションF 司会：齊藤文彦 大形利之「インドネシアのテロリズム—イスラーム過激派からテロリストへの変節に関する考察」 鍋島孝子「JST・JICA プロジェクト—アフリカ農民がコンポスト・トイレを受け入れるまで」 山本葉衣子「ジェイチャーニョ・ブラジレイロ ブラジル人の問題解決法—パラナ州ロンドリーナ市を事例として」	東餐 104	
	セッションC 司会：川村湊 佐野東生「シア派イスラームにおけるアラー信仰」 阪口有美子「日本古代の信仰にかかわる—考察」	東餐 104	10:30-12:00	フォーラム 『国際文化学』をどのように教えるか』 コーディネーター：松居竜五 発話者：3名	東餐 103
12:00-13:00	昼食・ワークショップ1 【祇園の所作】	東餐 103	12:30-13:30	総会	東餐 103
13:00-15:00	共通論題1・2・3 【三会場】		13:30-15:30	共通論題4・5・6 【三会場】	
	1 「北方先住民族の過去・現在、そして未来」 司会：井出晃憲 報告者：藤原潤子ほか	東餐 104	4 「岐路に立つ多文化主義—理論的・実証的再検討」 司会：川村陶子 報告者：白川俊介ほか	東餐 104	
	2 「日本の文化における超自然的な事物の表象—物の怪、幽霊、怪異を中心に」 司会：鈴木裕輔 報告者：ティタニラ・マートライほか	東餐 201	5 「グローバル社会における異文化調整と通訳翻訳」 司会：鳥飼玖美子 報告者：水野真木子ほか	東餐 201	
	3 「俳句の国際化と『非西洋』の拠点としての俳句」 司会：佐々木英昭 報告者：コリーヌ・アトランほか	東餐 205	6 「東アジアの教育における文化と政治」 司会：堤 ひろゆき 報告者：李 スルビほか	東餐 205	
15:00-17:00	シンポジウム 『非西洋型国際関係理論の可能性—京都学派との関係において』 モデレーター：滝口順也 パネリスト4名・討論者2名	東餐 103	15:30-17:30	龍谷大学大宮学舎・ミュージアム見学ツアー	
17:15-18:00	ワークショップ2 【二カ国語狂言】	本館前			
18:00-20:00	情報交換会	生協食堂			

*各セッション、ワークショップ、総会等の開催場所詳細については当日配付プログラムをご参照ください。
*理事会、常任理事会開催場所については別途ご案内いたします。

第12回全国大会参加申し込み要領

《大会参加費》

一般会員 2,000円 (当日2,500円) 一般非会員 3,000円 (当日3,500円)
院生・学生 1,000円 (当日1,500円)

《情報交換会》

一般 4,000円 (当日5,000円) 院生・学生 2,000円 (当日2,500円)

《お弁当代 (お茶つき)》 7月6日 1,000円 7月7日 1,000円

* 上記費用は、同封の専用振込用紙にてお振り込みください。

* 平成25年6月20日(木)までにお振込みいただいた場合は事前割引があります。

* 郵便局の振込用紙を使用される場合は、上記の振込金額内訳を通信欄にお書きの上、下記振込先までお願いいたします。

01390-1-89396 日本国際文化学会

* 今回大会では、学会から宿泊のご案内は行っておりません。宿泊の必要な方は、恐縮ですが、旅行会社等を通じて各自ご手配ください。

《事前連絡のお願い》

同封の「日本国際文化学会第12回全国大会参加連絡票」で6月20日(木)までにご連絡をいただきます様お願いいたします。

2013年度会費納入のお願い

2013年度会費納入をお願いいたします。同封の振込用紙(年会費用)を用いて所定の金額を納入してください。第12回全国大会参加費振込用紙とは別になっていますので、ご注意ください。

一般会員：10,000円、大学院生：5,000円、学部生：2,000円

なお、郵便局の振込用紙を使用される場合は、振込金額内訳を通信欄にお書きの上、下記振込先までお願いいたします。

01390-1-89396 日本国際文化学会

インターカルチュラル第12号投稿論文募集

第12号の投稿規定・執筆細則は、学会誌「インターカルチュラル」第11号掲載のものを適用しますが、提出先(問合せ先)が変更されているので、ご注意ください。

投稿論文締切日を2013年8月9日(金)必着とします。

投稿論文は以下の宛先まで電子メールまたは郵送でお送りください。

〒590-0114 大阪府堺市南区槇塚台4-5-1

プール学院大学国際文化学部 植野雄司研究室

e-mail:y.ueno@poole.ac.jp

文化創成コーディネーター・ ワーキンググループ協議を開催しました

4月13日、龍谷大学にて、これまでのW.G.協議会の審議事項を踏まえて、第5回協議会が開催された。要点は以下の通りである。

- 資格制度・設置委員会の発足：WGは、次回全国大会の総会に報告書を提出して解散し、新たに資格制度の設置委員会を発足させる（常任理事は設置委員を兼ね、さらに若干名を加えて設置委員会とし、拡大常任理事会で協議）。設置委員会会長は熊田顧問に依頼する（熊田氏快諾）。
- 指定カリキュラムに対する学会の関与：資格認定に係る「カリキュラム委員会」を学会内に設置し、資格制度に参加申請した大学の指定カリキュラム案について審議・認定を行う。カリキュラムは、基礎科目（2科目）＋専門科目（2科目、あるいは演習を含む場合4科目とする意見）＋フィールド実習（2科目）とする素案が提出された。なお、資格認定の審査は、学生の就職活動の便宜をはかるため、3年次の学生を対象に、12月の情報交換会で資格認定を行うことにしたい。
- 合宿制度の導入：指定カリキュラムのフィールド実習の一環として、学会公認の合宿を設ける。目下、佐賀大学、山口県立大学、龍谷大学が中心となって合宿を行う予定である。2015年度から制度が開始する場合、翌年度夏の合宿は龍谷大学が開催校となる見通しである。2014年度の制度スタートも、可能であれば検討する。



文化創成コーディネーターWG委員長 佐賀大学 木原 誠

日本国際文化学会事務局からお知らせ

- ・会員（一般、大学院生で前年度学会費納入の方）には、学会誌「インターカルチュラル第11号」を同封しています。
- ・バックナンバー第1号から10号のお求め、あるいはセット販売（10冊）については、学会事務局にお問い合わせ・お申込みください。ぜひ、研究室や大学図書館等にセットでご購入をお願いいたします。
- ・学会事務局が変わりました。新住所、連絡先等にご連絡・お問い合わせいただきますようお願いいたします。
- ・また、ご連絡先・メールアドレス・ご所属等に移動があった場合は、事務局にお知らせいただきますようお願いいたします。

編集後記

第12回全国大会に向けて着々と準備が進んでいます。主催校を担当していただく龍谷大学の皆さんの熱い思いと意気込みが、すでにこの紙面からも感じられることと思います。学会の大きな課題のひとつである「文化創成コーディネーター」を巡る検討もクライマックスを迎えそうです。7月の京都でお会いするのを楽しみにしています。なお、ニューズレターの編集作業は、事務局（山口県立大学）の皆さんの献身的な力で遂行していただいています。心から感謝申し上げます。（F.K.）